

新 珍奇物語初編下

加藤文利 寄贈本

東江樓主人 纂輯

世界中の異風

世界中の人民の種類と土地の模様

暖の異同とふよりうと其衣食風習もその

美ありとりのへども就中奇ともなると日本

婦人の廣帯と西洋婦人の廣袴と支那婦人の



の小足等あれなり。之と世界の三奇風といふ。○旧木の婦人も幅一尺余。長さ一丈許の廣さかびと腰は巻つけ。あれを後腰りてしとび。藝妓の如き。其端と足のあうねどゆが垂るり。此あり。ほく婦人嫁入たる乃ち合業といく齒を黒く。眉毛と剃却。天竺の容貌を變ず。○西洋の婦人も足の廣さ二段。あこは三段。みひだを付ける袴の如

851
7

きものを穿く。其長さはと腕の方。一尺許地をとるものあり。且綱のぬき物を被りて面部と蔽ひ。耳は穴と穿て輪飾と懸る。まこと奇とりな。○支那の婦人も足の小ると貴び。就中貴家もて。嬰兒のときより女子は足は横形をとめて。之を大ひをく。免ず。故は足の形を殆ど馬の蹄の如く。て。獨り自りと歩行くと甚ど程く。大抵は人の

支那の婦人



印度の婦人

西洋の婦人

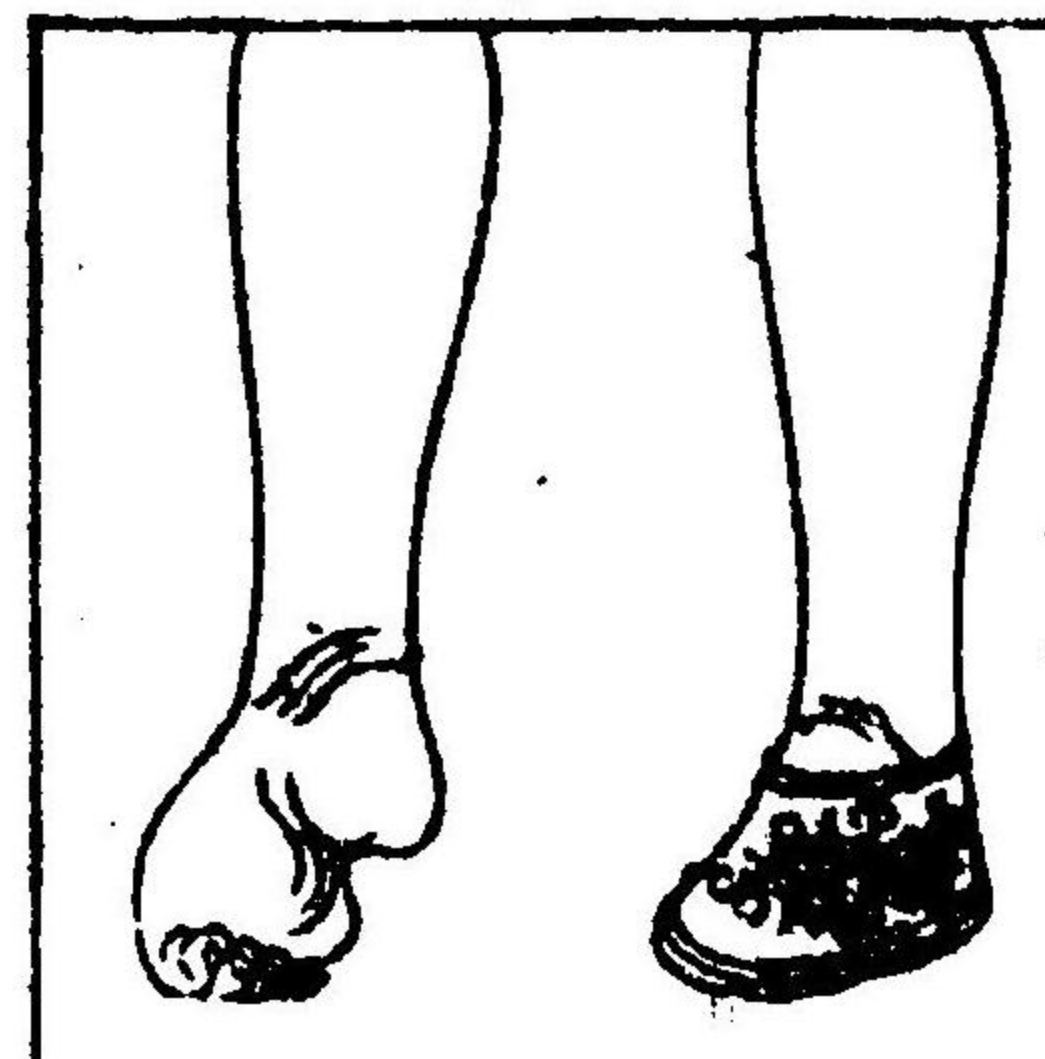


日本の藝妓



肩かたふたてて歩あ行ゆす。世よ界かい
中ちゆうはは天てん風ふう多たししとい
へども。就す中ちゆうああれれふふの
天てん東とうのの身み体たいをを残のこののふ
のの惡あく風ふうとと云いふふべべい

○其その外ほか處ところあるある風ふう習じゆ多たききががららちちふふゆゆ印いん度どの
内うち少すくをを耳みみ橋はしとと異ちがふふ。然しかるるややああるるあり。其その容よう貌ぼう
実じつ小せう舟ふねととりりつつつつ。ままままとと印いん度どめめととるる人ひと民たみ一いつ



支那の邦人足の形

般はんふふ神しん仏ぶつとと信しん仰やう。色しきのの偶ぐ像ざうをを作つくりりてて之これ
とと言いふふ。華かとと興きうふふるるもも禍わざはひととああるるもも皆みな
神しん仏ぶつのの心こころをを思おもふふ。何なにももおおととれれ虚うそ説せつふふ惑まど弱じやくううふふ
るるああとと尤なほもも甚しどどくく自みづからら其その身み体たいをを艱い苦くせせ
しし。数すう日じつ食じきとと祈いのちすす。痛いたとと忍しのびび或あるはは神しん仏ぶつののた
めためにに死しままるるとと善ぜんととしし。或あるはは女によ子こ女によとと以もつてて穢けがれれ
ととすす。之これをを安やす願ねがひひととりり。大おほ河がをを投なげげ込こめめ。大おほ魚うのの
食たべべ。供たままへへてて幸さい福ふくをを傳たづづねね。或あるはは此こゝろ大おほ河がをを身み

と授く死を考ふる。かゝるに復び福考の家
に生る。採との説を信ず。自ら身を授く死
を考る者甚と多し。やうと夫病死するに對し其妻
自ら火の中へ飛込て生るがが焚死ぬと考
ゆる。之等は最も愚風也。天道亦背くは
甚し。死を以て故近來英國の政府より命令と出
し之を禁ず。とり人ども。固有の陋習を迷
ひ深き今も全く改めんと改る事ありしり。

○日本の男子。若年ふ至るは前髪を利落し
て奴となり。余髪を結ぶ。支那の男子は髮
とみく。髮頭髪を利落し。頂上より少許との出
し。これと三つは組む。背後に垂れ其長さこ
と足の中央に垂る。且貴人の尻を延しと一
寸余乃長さに至るとはあり。○亞細亞洲の
島嶼中。小蘇門答刺とりの島あり。蚊島の婦
人ら鼻の低きを美人とす。自ら女子を産

人婦の島ラタモス



支那の男子



日本の子



るど兒ら其鼻と唇推しを平低ふるす海と
弊風とりゆる

○支那の内廣東と稱せる都府は廣東河と
 り入る大河の北岸に傍て市街を丘陵に連
 り。其景色頗る佳なり。城郭辺に住居せる人
 民百万人余あれども。其内三十万余は皆船
 住居多し。陸上は住居多しと許さず。又一奇法
 とりしるべし。其船數四万ふ下らば其大なる
 船は三十間余の長あり。各船は皆一家を
 たり。一族卑僕を柁息とするはあり。草花

支那の内
 船住居の
 有様
 田一富家
 乃番



樹竹の族より。鷄犬豕羊ふ玉るまで皆あし
ごとく船の中ふ備ふ又往來する処も舟と
編列す道路ともす。蕃物と商ふ店ありと。突
ふ一部の市街と水上よりを々如く。舩舟住
居のよける。水上小生れと。おれ上小長ち終
身陸地と踏どりと死るもの幾万人あるを
奇とばとりふ

○まゝ奇異なる悪風とりつぐまゝなる。支那の

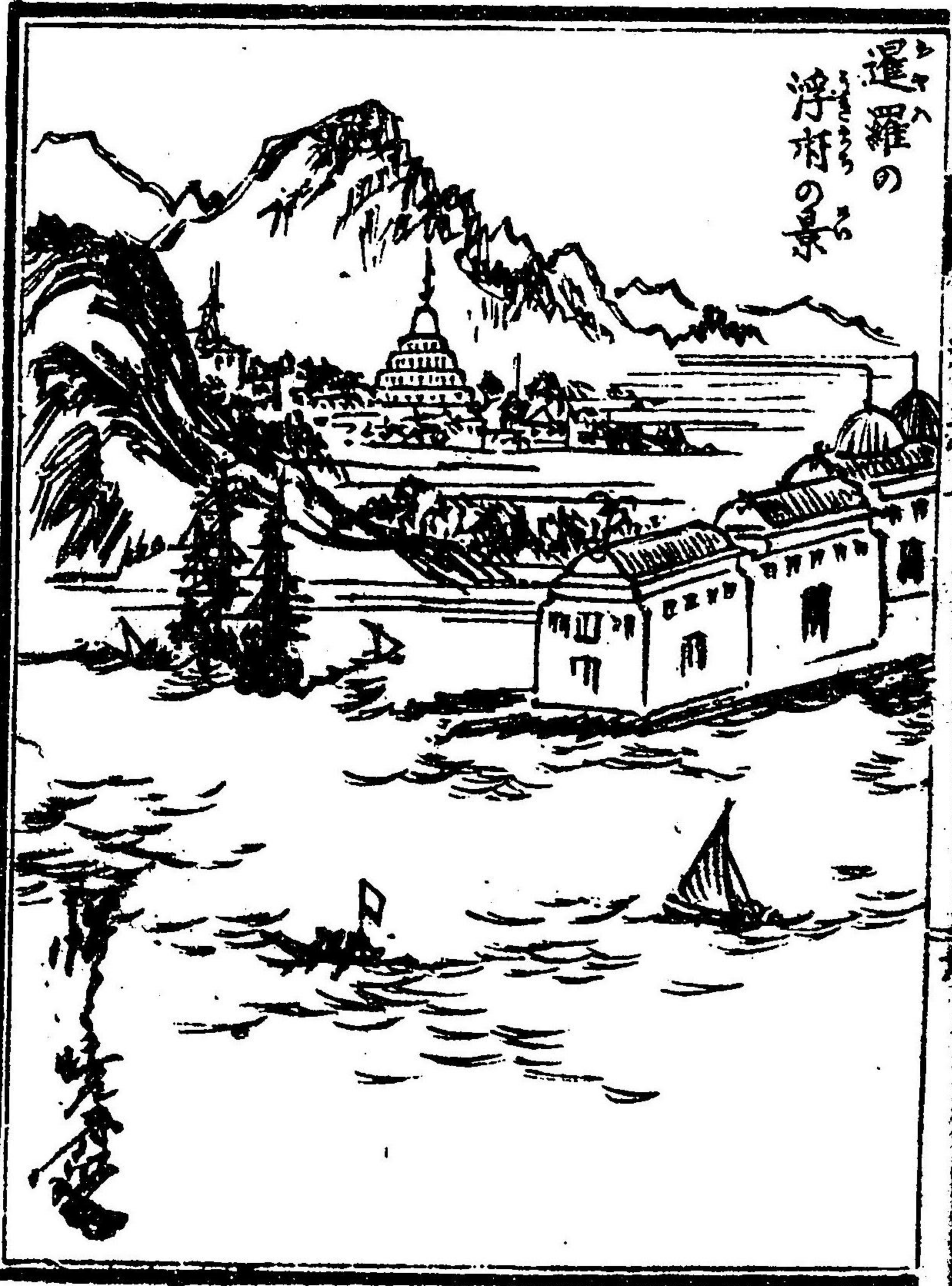
うちふ。西藏とりふ國なり。此ふの人民も兄
弟教人として一姉を娶りともふ之を妻とほ
ると一般とす○はる支那のうち。小佛加里
とりふ所もとる。一夫とて衆婦を娶るを美
中とほ。但し其婦を貰ふふと。一人は付金百兩
余の身受金と拂ふ故に宛てたる時を。まゝと
他人ふ妻を換るも妨なく。其女の容貌も甚と
美麗めし。耳は金銀五采の環と穿つ。其長

さ六七寸、ゆく入ふ嫁たるるに、凡と赤色
ふ漆るを礼とせきりふ

○亜細亞洲後印度のうらふ。暹羅とりふ國
あり。人数る三百万余もありて、隨分繁昌の
國あり。以必の首府と曼谷とりひ。國王の位
所を湄南とりふ大河の口ふあり。以市街
半分を河の隈りふ、ゆれども、半分を河の上
ふ筏とゆり。其上に家と建て水上に住居す。

故に家は潮の差をよきとぐり上下の流
れ家の周囲ゆる大船数艘をたかるとも
ふ流動す。実よ奇とりふ。以水上の家屋
る皆平家をれども、奇麗な軒とありて、見世
をわづり、葉物と高ふ。又景色よに、処ふ椽側
と差出し、小船とつる、其家は、前のふある
河も、明は、往來ゆりて、大小の船艦陸續
として、絶るまを、実よ世界の中、珍しき

暹羅の
浮舟の景



暹羅の景

暹羅の男子



全婦人



処あり。尚此事を萬國奇談
 とりし書みあしければ出
 とみ畧す○又此國の田舎
 の風俗も他より比ぶれを大
 ひみ卑陋く半身を裸躰小
 し歩行ふる跣足を常とす。
 ほと男女とも皆前頭より
 頂まをと断髪す。兩鬢よ

り。乃ち方を剥去す。其容貌実小奇あり。まこと
他處の人比煙草を用るる如く。擯擲の實を
啗む。小より口唇子を赤黒し。甚だ不潔
なり。又必内一般小人を賣買し。海と之を終
身買切りて。牛馬の如く使ふの恣風あり
○西洋各國開化の風。めぐる。貴賤上下の差
別。至く廢し。うら。一國縉紳の人。も。平
生。と。獨。り。て。歩。行。す。又。必。の。公。法。を。犯。す。様。乃

あ。と。何。ん。だ。平。人。の。如。く。訟。庭。に。呼。出。さ。れ。若
の。鞠。問。と。受。く。る。あ。と。平。人。と。異。る。と。や。る。
○海と平家の娘。或る婿婦。あ。と。め。て。其。必。の
女王。と。同。名。を。る。者。甚。だ。多。け。れ。ど。も。敢。て。之
と。妨。げ。る。あ。と。る。之。よ。反。し。亞。細。亞。洲。の。う
ち。開。化。を。被。り。さ。る。ま。と。殊。に。緬。甸。と。り。ぬ。因
お。よ。て。ハ。其。刑。法。甚。だ。嚴。し。く。若。し。誤。つ。て。必
王。の。名。と。呼。ひ。或。は。之。を。書。く。罰。の。あ。と。り。れ

卷之三
三

は残酷き死刑ふ処す。其風俗甚ど賤陋く且
男女裸躰と名と一恥と考りざるふ似たり
近年英國と戦つて大ひに敗れども未だ
其旧習を變革せざるを知らざるまゝと頑愚
しりふべし

○亞細亞洲のうち亞拉比亞とシリヤ國を日
輪の真下ふたつと季候尤もあつく国内は
大抵數百里の沙漠にて草木の生じざる處も

ふく風雨由て砂波を起し。道路の標的とし
なきと雖も何とぞれば此辺と旅行する者
右駱駝とシリヤ獸小駕り數人隊と組む磁針
と以て方角を定むること稠度大洋中と航
するが如く。此處に住居する者も大抵いまだ
開けざる野民小をみ定まりたる住家も
おく。駱駝小食物家屋などより。諸道具を駕
て彼処此処と水草の在る方と索欠て四方

小轉移と先
 く小幕と張
 りて住居
 蝮とやうに
 と干物とを
 して食物小
 供ふ且虫
 の土民を盗



亜非利加人
 水草の傍
 幕と張りて
 宿する

賊と業として。他邦の民を襲ひ。或る旅人
 掠むるを以多し。故小虫と旅する人を盗
 賊を恐まてが。おとげ数人隊を組して行く
 と常とたの虫沙漠を旅するに其都合小
 より。五日も十日も水草ふ出遇ざるあとな
 りて牛馬みこるや。おとす渴死せられども
 天の恵とあり。此辺には駱駝あり。其駱駝を
 数日の間飲ず食へずして。餓渴と堪ゆ。

故小沙漠
 中み及無
 て叶とぬ
 黙ふて其
 早きこや
 通例一日
 ふ八十里
 より百里

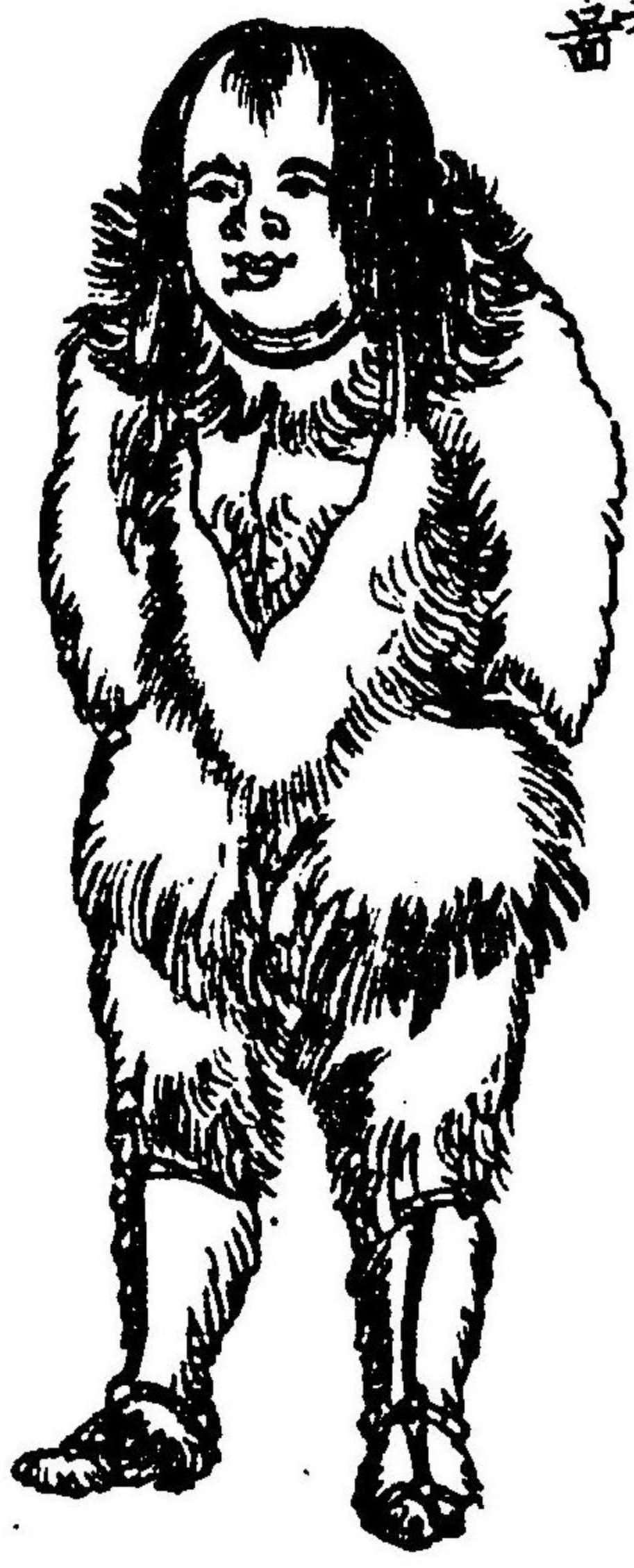


駝
 重荷
 駕
 する
 番

余と行く由て駝と沙漠中の舟とり
 ○世は人民の風習容貌等もいろいろあり
 て奇なるあときか中ふも北亞米利加の
 極北の方北極ふ近き辺に居おる人民
 と「イスクイモウス」とり。一体此辺る世界
 中を一むん寒さ処ゆてなうく人間の住
 居も出来がとれ処るれども天のまことや
 云らん。此辺るをハ獸類も多き由る人

民も獸を殺し其肉を食しと腹中とりく
 免其毛皮と頭より足まで被りて寒を凌ぐ
 故に初め之と見れば恰も人間ふ毛の生
 たるが
 おくく。

イヌクイモウスとりの亞米利加
 北極辺に住居る
 人民の番



其容貌
 実ふ奇
 あり又

氷辺も長短く冬長く殊に冬の間に雪多く
 して出る事も出来がたき故に夏のうちに小獸
 魚などを捕り集め之を干物として冬に向
 へば雪みを作られたる小屋のうちに引籠る
 此小屋は川に流れて来る樹を拾ひ集め之を
 地中ふきしきとて丸ま家の形を造りその
 外周に小雪を塗り付け以て塗の如く風雨
 を凌ぐ此の雪家の一方小口を穿ち雪の蓋

イスクイモツス人
 雪裏に住居
 ありとせいと
 漢とる素



と閑閑して人民ありより入出す冬の間に
 斯く人民一所に相集りて住居をとり入
 も春ふ玉れば皆散乱して近所の島々
 至り。魚漢と業とす。実ふ之をる人間の
 下等あり

尚亜非利加島に人の人民ふ玉てる実
 奇るる夏多ければも皆二編ふすべし

珍奇物語初編下終

一 珍奇物語

二 初編出版
續編出版

二 日用究理物語

二 初編出版
續編出版

一 繪本地理物語

初編近出

萬國名所

一 俗通天文夜話

全

一 萬國自慢

全

官許

東江樓藏版

書

芝三島町

和泉屋市兵衛

通油町

藤岡屋慶次郎

馬喰町

森屋治兵衛

全

山口屋藤兵衛

肆

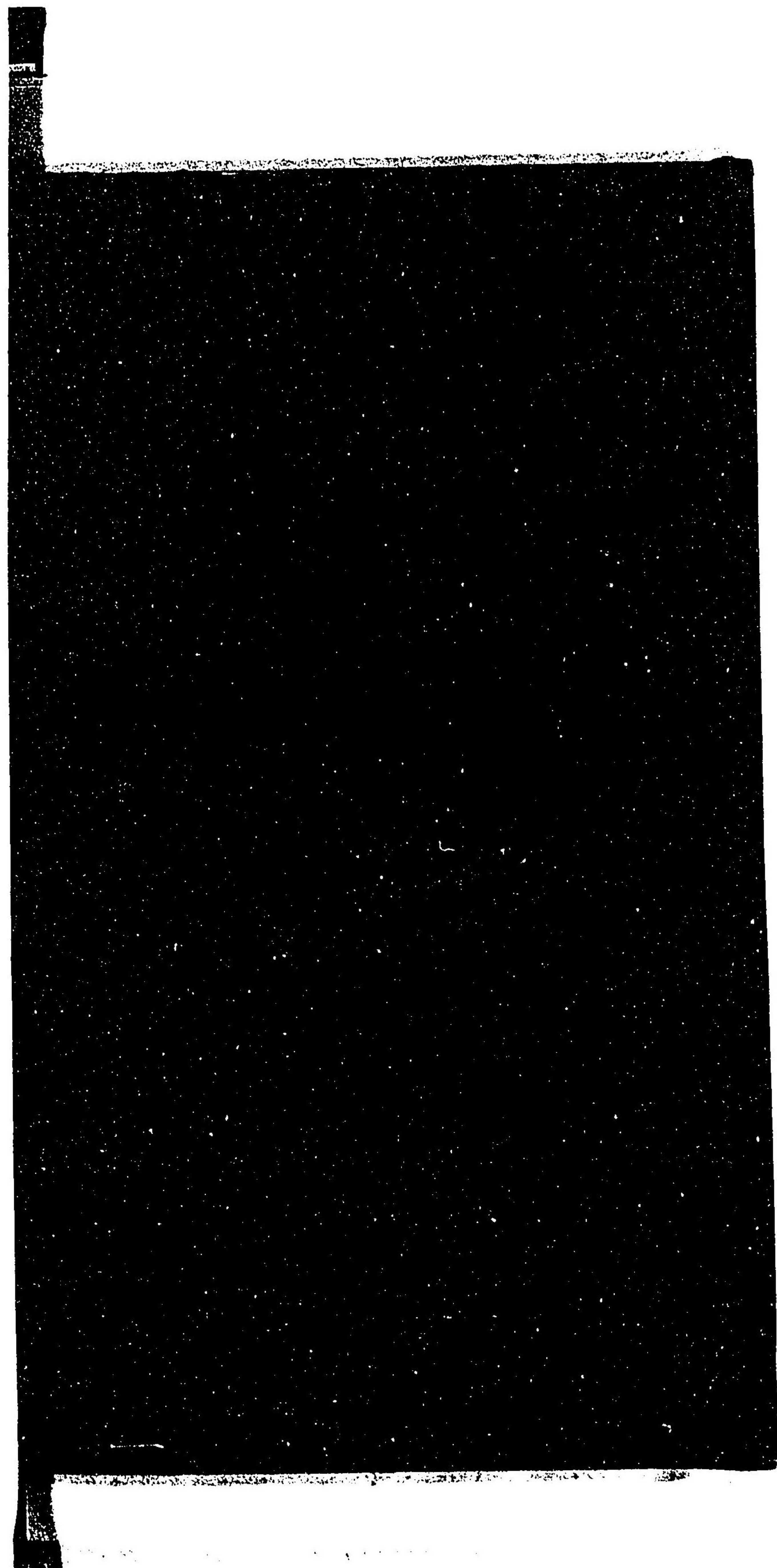
大黒屋平吉

大黒屋平吉

85
7

851

7



851
7

027363-000-4

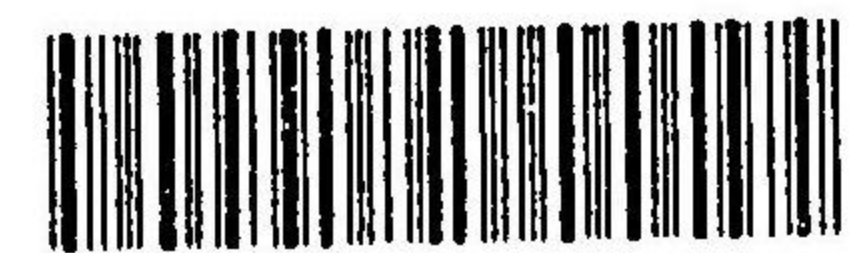
851-7

珍奇物語

東江楼

[刊年不明]

ADJ-0119



851
?